

安中市立九十九小! 及び大規模改造

学校耐震補強工事

（建築）工事

安中市立九十九小学校耐震補強工事
及び大規模改修（建築）工事

設計図

平成 年 月（全 枚）

仕 様 書

I 工事概要

1. 工事場所

安中市松井田町下増田446

2. 敷地面積

15,672 m²

3. 工事種目

1. 耐震補強工事

2. 屋根改修工事

3. 外壁改修工事

4. アリーナ床改修工事

5. トイレ改修工事

4. 工事内容

1. プレス補強、方杖補強、小梁火打材補強、基礎梁補強、ハスケットボール落下防止措置
その他補強に伴う補修工事

2. 既存屋根撤去後、新設屋根葺き及び母屋新設

3. 既存外壁材及び下地材撤去後、新設外壁材張り及び鋼筋新設、外部塗装塗替

4. 既存床材及び床組撤去後、新設床張り及び床組新設 コートライン新設

5. 男子・女子便所改修、男子・女子・多目的便所新設（間取り変更）

男子・女子更衣室、用具庫耐震補強に伴い内装改修

体育館壁一部改修

その他改修に伴う補修工事

5. 工事範囲

※「3. 工事種目」全てを工事範囲とする。
・「3. 工事種目」のうち各工事項目における工事範囲は下記表のとおりとする。
ただし、他の工事種目は全て、今回工事範囲とする。

工事種目				
工事項目				
2 仮設工事				
3 防水改修工事				
4 外壁改修工事				
コンクリート打ち出し仕上げ外壁				
外壁改修工事				
モルタル塗り仕上げ外壁				
外壁改修工事				
タイル張り仕上げ外壁				
外壁改修工事				
塗り仕上げ外壁				
5 建具改修工事				
6 内装改修工事				
7 塗装改修工事				
8 耐震改修範囲以外の躯体改修工事				
耐震改修工事				
9 環境配慮改修工事				

II 建築改修工事仕様

1. 共通仕様

(1) 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、全て国土交通省大臣官庁営繕部監修の「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（最新版）」（以下、「改修仕様」という。）により、また、改修仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（最新版）」（以下、「仕様」という。）による。

2. 特記仕様

(1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。

(2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。
○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。
○印と○印の付いた場合は、共に適用する。

(3) 特記事項に記載の〔 〕内表示番号は、改修仕様の当該項目、当該図又は当該表を示す。

(4) 特記事項に記載の（ ）内表示番号は、仕様の当該項目、当該図又は当該表を示す。

(5) G印は「国等による環境物品等の調達の推進に関する法律」（以下「グリーン購入法」という。）の特定調達品目を示す。

章 1 一般共通事項

① 適用基準等

○建築工事標準詳細図（国土交通省大臣官庁営繕部整備課監修 最新版）
○工事写真の撮り方（改訂第二版）建築編（国土交通省大臣官庁営繕部監修）
※適用する

② 工事実績情報の登録

③ 品質計画等

○建築基準法に基づき定められる区分等の適用工事
※風速（V₀＝30m/s）
※地表面粗度区分（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）
・積雪区分 H12告示第1455号 別表（ ）

④ 電気保安技術者

工事現場において電気保安技術者は、電気事業法に基づく電気主任技術者の職務を補佐し、電気工作物の保安の業務を行うものとする。
○要 ・不要

⑤ 条件明示項目

○現場説明書による

⑥ 発生材の処理等

※現場説明書による ・構外搬出適切処理

⑦ 建築材料等

本工事に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、JIS及びJASマークの表示のない材料及びその製造者等は、次の（1）～（6）の項目を満たすものとする。
（1）品質及び性能に関する試験データが整備されていること
（2）生産施設及び品質の管理が適切に行われていること
（3）安定的な供給が可能であること
（4）法令等で定める許可、認可、認定又は免許等取得していること
（5）製造又は施工の実績があり、その信頼性があること
（6）販売、保守等の営業体制が整えられていること
なお、これらの材料を使用する場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料又は外部機関（（社）公共建築協会 他）が発行する資料等の写しを監督職員に提出して承認を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承認を受けた場合はこの限りでない。
また、備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は、監督職員の承認を受ける。

⑧ 化学物質を発生する建築材料等

本工事の建物内部に使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次の（1）から（5）を満たすものとする。
1）合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、仕上げ塗材及び壁紙は、ホルムアルデヒドを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。
2）保温材、緩衝材、断熱材はホルムアルデヒド及びスチレンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。
3）接着剤はフタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシルを含有しない難揮発性の可塑剤を使用し、ホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。
4）塗料はホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。
5）1）、3）及び4）の建築材料等を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器等は、ホルムアルデヒドを発生しないか、発散が極めて少ないものとする。
また、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」は、次のとおりとする。
規制対象外
①JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品
②建築基準法施行令第20条の5第4項による国土交通大臣認定品
③下記表示のあるJAS規格品
a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用
b. 接着剤等不使用
c. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない材料使用
d. ホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用
e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料使用
f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを放散しない塗料等使用
第三種
①JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品
②建築基準法施行令第20条の5第3項による国土交通大臣認定品
③旧JISのE0規格品
④旧JASのF00規格品

⑨ 特別な材料の工法

改修仕様及び、横仕に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。

⑩ 技能士

適用工事種別	技能検定作業
防水改修工事	・アスファルト防水工事作業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事作業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事作業 ・合成ゴムシート防水工事作業 ・塩化ビニルシート防水工事作業 ・セメント系防水工事作業 ○シーリング防水工事作業 ・改質アスファルトシートローテ工法防水工事作業 ・FRP防水工事作業 ・左官作業 ・内外装板金作業
外壁改修工事	・左官作業 ・タイル張り作業 ・建築塗装作業
建具改修工事	○ビル用サッシ工事作業 ○ガラス工事作業 ・自動ドア施工作業
内装改修工事	・プラスチック系床仕上げ工事作業 ・カーペット系床仕上げ作業 ○ボード仕上げ工事作業 ○鋼製下地工事作業 ○左官作業 ○壁紙作業 ○大工工事作業 ・タイル張り作業
塗装改修工事	○建築塗装作業
耐震改修工事	○鉄骨組立作業 ○型枠工事作業 ○とび作業 ○鉄筋組立作業
コンクリートブロック・ALCパネル工事	・コンクリートブロック工事作業 ・エーデルシーバネル工事作業
石工事	・石張り作業
植栽工事	・造園工事作業

DATE

09.09

SIGN

1 1 化学物質の濃度測定 [1.6.6]
施工完了時に室内空気中のホルムアルデヒド、トルエン、キシレン、エチルベンゼン、スチレンの濃度を測定し、報告すること。
測定はバッシュ型採取機器により行う。
着工前の測定 ・行う
測定対象室 ・図示
測定箇所数 ・図示
報告の様式等については、現場説明書による。
1 2 完成図等 [1.8.1~3] [表1.8.1]
・完成図
・既存図面修正
※作成する 提出部数 ※各2部 ・部 (A2版第2図面及び電子媒体 (CD-R))
種類 ※改修仕様表1.8.1による。
ただし、種類は当該工事で該当する図面、表及び計画書とする。
※施工計画書 提出部数 ※1部 ・部
※施工図 提出部数 ※1部 ・部
・保全に関する資料 提出部数 ※1部 ・部
1 3 設備工事との取り合い
設備機器の位置、取合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。
1 4 設計 G L
※図示 ・設計 GL=現状 GL
1 5 工事写真
○「営繕工事電子納品要領 (案) (最新版)」による
2 仮設工事
2 1 足場その他
内部足場 種類 ※きやつ、足場板等 ○許組脚立
外部足場 種類 ※A種 ・B種 ・C種 ・D種
防護シートによる養生 ※行う ・行わない
材料、搬去材等の運搬
・A種 ※B種 ・C種 ・D種 ・E種
2 2 養生
既存部分の養生 ※ビニルシート等
既存家具等の養生 ※ビニルシート等
固定家具等の移動 ※行わない ・行う (図示)
3 仮設間仕切り
仮設間仕切り等の種別 [2.3.2] [表2.3.1]
種別 下 地 仕上材 (厚さ mm) 充てん材 装 装
・A種 ※軽量鉄骨 ・合板 (※9.0) ※無し
・B種 ・木下地 ※せつこうボード (※9.5) 厚さ mm ・片面
※C種 単管下地 防炎シート
仮設扉 ※木製扉 ※合板張り程度 ※無し
・鋼製扉 ※片面フラッシュ程度 ・有り
4 監督職員事務所
・既存建物内の一部を使用する ・構内に設置する ・設けない ○現場説明書による
○規模及び仕上の程度は現場説明書による。
5 工事用水
構内既存の施設 ※利用できない ・利用できる (※有償 ・無償)
6 工事用電力
構内既存の施設 ※利用できない ・利用できる (※有償 ・無償)
3 防水改修工事
1 アスファルト防水
防水改修工法の種類 [3.3.2.3] [表3.1.1] [表3.3.3~10]
施工箇所 新規防水層の種類
保 ・PIB ※B-1 ※B-2
護 ・PIB I ・TIB I ・B I-1 ※B I-2
防 ・P2A I ・A I-1 ※A I-2
水 ・P2A ・A-1 ※A-2
露出 ・M4C ・C-1 ※C-2
防水 ・M3D ・POD ・D-1 ※D-2
屋内 ・PIE ・P2E ・E-1 ※E-2
防水 (保護層は図示による)
アスファルトの種類 ※3種 ・4種 [3.2.2] [3.3.2]
保護コンクリートのコンクリート種類 ※無筋コンクリート [3.3.2]
POD工法の二重ドレン ※設けない ・設ける [3.2.5]
M3D、POD工法の脱気装置 ※設けない ・設ける [3.3.3]
既存露出防水層表面の仕上げ塗装 (M4C工法の場合) ・除去する [3.2.6]
断熱工法の断熱材 厚さ (mm) ※25
ただし、ノンフロンのもの [G] に限定する。
立上り部の保護 [3.3.2]
・れんがの種類 ※見え隠れ部分は市販品のれんが又は、市販品のれんがが形コンクリートブロックとする。
・乾式保護材の材料 ※押出成形セメント板 厚さ15mm
2 改質アスファルトシート防水
[3.4.2.3] [表3.1.1] [表3.4.1~3]
防水改修工法の種類 施工箇所 新規防水層の種類 厚さ (mm)
・M4AS工法 ・AS-1 ・AS-2 ・AS-3
・M3AS工法 ・AS-4 ・AS-5 ・AS-6
・POAS工法
・M3AS I 工法 ・AS I-1 ・AS I-2
・M4AS I 工法
・POAS I 工法
脱気装置 ※設けない ・設ける
3 合成高分子系ルーフィングシート防水
4 塗膜防水
[表3.1.1] [3.6.3] [表3.6.1]
防水改修工法の種類 施工箇所 新規防水層の種類 仕上げ塗料等
・POS I 工法 ・S-F1 ・S-M1 ・カラー ※非歩行
・S4S工法 ・S-F2 ・S-M2 ・シルバー ・軽歩行
・S3S工法
・M4S工法 ・S-M1 ・S-M2
・POS I 工法 ・S I-F1 ・S I-F2
・S4S I 工法 ・S I-M1 ・S I-M2
・S4S I 工法 ・S I-M3
・M4S I 工法
脱気装置 ・設ける ・設けない [3.6.3]
目地処理 PCコンクリートの場合 () [3.5.4]
5 脱気装置
[3.3.3] [3.4.3] [3.5.3]
種 類 材 質 設置数量
・平面部脱気型 ・ポリエチレン樹脂 ・ABS樹脂 ()
・ステンレス ・鋼鉄 m²当たり1箇所
・立上がり部脱気型 ・合成ゴム ・塩化ビニル樹脂 ()
・ステンレス ・銅 m²当たり1箇所
6 シーリング
シーリング改修工法の種類 [3.1.4] [表3.1.2]
○シーリング充てん工法 ・シーリング再充てん工法
・拡張シーリング再充てん工法 ・ブリッジ工法
シーリング材の種類、施工箇所 [3.7.2] [表3.7.1]
※下表以外は、改修仕様表3.7.1を標準とする
施工箇所 シーリング材の種類 (記号)
7 とい
といの材質 [3.8.2] [表3.8.1]
※配管用鋼管 ・硬質塩化ビニル管 ・排水用リサイクル硬質塩化ビニル管 (REP-VU) [G]
・植物排水用リサイクル発泡三層硬質塩化ビニル管 (RF-VF) [G]
鋼管製といの防露 [3.8.3] [表3.8.5]
・次の箇所は行わない ()
ロックウール保温筒及びフェノールフォーム保温筒のホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外 ・第三種
排 除 口 ※有り ・無し
縦受け金物の取付け [3.8.3]
※図示 ・横仕13.5.3 (d) (2) による
8 アルミニウム製笠木
[3.9.2] [表3.9.1]
種 類 呼称肉厚 (mm) 表面処理 固定間隔 備 考
・250形 1.6以上 ※A-1又は 固定方法及び 隅角部及び突当たり部等の役
・300形 1.8以上 B-1種 間隔は品質計 是本体製造所の仕様による。
・350形 2.0以上 ・B-2種 画で定めた
・100形 () 物の
・200形 1.6以上
板材折曲げ形の取付工法 ・図示 [3.9.3]
9 折板葺
(13.3.2.3) (表13.2.1)
形 式 ※重ね形 ・はざ縛め形 ・かん合形
形状 (mm) 山高 () 山ピッチ () 板厚 ※0.6 ・0.8
材 料 ※塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯
(GLCCOR-20-AZ150)
(規格等)
軒先面戸板 ※有り ・無し
断 熱 材 ※有り (種別) 厚さ: (mm) ・無し
耐火性能 ※30分耐火 ・無し
4 外壁改修工事 共通事項
1 施工数量調査
調査範囲 ※外壁改修範囲 ・図示の範囲 [1.5.2]
調査内容
ひび割れの幅及び長さ等を壁面に表示する。また、ひび割れの挙動の有無、漏水の有無及び錆汁の流出の有無を調査する。
モルタル塗仕上げ及びタイル張り仕上げについては浮き部分を表面に表示し、また欠損部の形状寸法等を調査する。
コンクリート表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。
塗り仕上げについては、コンクリートまたはモルタル表面のはがれ及びはく落部を壁面に表示する。また、既存塗膜と新規塗料との適合性を確認する。
調査報告書の部数 ※2部

・既製調合モルタル

保水率 (%)	単位容積質量 (kg/l)	接着強さ (N/mm ²)	長さ変率 (%)	曲げ強さ (N/mm ²)
70.0以上	1.80以上	0.60以上	0.40以上	0.20以下

・パテ状エポキシ樹脂

初期硬化性 (標準)	接着強さ (標準)	圧縮強さ	曲げ強さ	硬化収縮率
2.0N/mm ² 以上	6.0N/mm ² 以上	50.0N/mm ² 以上	30.0N/mm ² 以上	3.0 (%)以下
a. 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。				
b. 対象とする被着体を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと。				
c. 常温・常湿 (温度20±15℃、湿度65±20%) において製造所の指定する期間又は製造後6か月間保存した後であっても、上記の品質・性能の各項目に適合していること。				

・可とう性エポキシ樹脂

性 能	常温物性	低温性	加熱変化	引張接着性
引張強さ	1.0N/mm ² 以上	1.0N/mm ² 以上	1.0N/mm ² 以上	最大引張応力 1.0N/mm ² 以上
伸び	30.0%以上	30.0%以上	30.0%以上	破断時の伸び 10%以上

比重 表示値±0.10

押出し性 60秒以下

スランプ 3mm以下

加熱減量 5%以下

a. 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

b. 対象とする被着体を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと。

c. 常温・常湿 (温度20±15℃、湿度65±20%) において製造所の指定する期間又は製造後6か月間保存した後であっても、上記の品質・性能の各項目に適合していること。

・タイル部分張替え工法用材料

接着強さ	標準	低温硬化	アルカリ温水	冷熱水中繰返し	熱劣化
強度 (N/mm ²)	0.60以上	0.40以上	0.40以上	0.40以上	0.40以上
凍結破壊率 (%)	75以上	50以上	50以上	50以上	50以上
皮膜物性	標準	高温	低温	アルカリ温水	熱劣化
引張強さ (N/mm ²)	1.00以上	1.00以上	1.00以上	1.00以上	1.00以上
伸び (%)	30以上	30以上	30以上	20以上	20以上

貯蔵安定性 容積と粘度に着いた変化がないこと。

耐熱性 JIS A 5548に準じた試験において、80℃で4週間、9.8N/m²で安定していること。

a. 外観は、均質で、有害と認められる異物の混入がないこと。

b. タイル、石材、下地等を侵さず、かつ、周囲を汚損しないこと。

c. 「化学物質の審査および製造等の規制に関する法律」に基づく特定化学物質及び「労働安全衛生法」に基づく、「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。

d. 常温・常湿 (温度20±15℃、湿度65±20%) において製造後6か月間保存しても上記の品質性能に適合していること。

e. ずれ抵抗性があること。

f. 混練終了時の確認が容易なように色が明瞭であること。

・エポキシ樹脂モルタル

接着強さ	圧縮強さ	曲げ強さ
1.0N/mm ² 以上	20.0N/mm ² 以上	10.0N/mm ² 以上

a. こて塗りが容易で、かつ、硬化後の仕上がり良好であること。

b. 均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

c. 「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。

d. 形状に異常がなく、だれが生じないこと。

e. 常温・常湿 (温度20±15℃、湿度65±20%) において製造後6か月間保存しても上記の品質性能に適合していること。

・ポリマーセメントモルタル

ポリマーセメントモルタルの種類

合成ゴム系、アクリル系、エチレン-酢系等

曲げ強さ (N/mm ²)	圧縮強さ (N/mm ²)	接着強さ (N/mm ²)	標準時	湿潤時	低温時
6.0以上	20.0以上	1.0以上	0.8以上	0.8以上	0.5以上

表面状態 だれの下がりは5mm以内とし、ひび割れが発生していないこと。

透水性 裏面の濡れ、水滴の付着がないこと。

均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

・ポリマーセメントスラリー

広がり速度 (cm/s)	長さ変率 (収縮)	引張接着性 (材齢28日)	曲げ性能 (材齢28日)	吸水性 (72時間)	耐久性 (変化曲げ強さ)
3以上	3%以下	0.5N/mm ² 以上	5.0N/mm ² 以上	15%以下	5.0N/mm ² 以上

保水係数 0.35～0.55

粘調係数 0.50～1.00

・吸水調整材

項目	全固形分 (%)	吸水性 (g)	接着強さ (N/mm ²)	界面破壊率 (%)
品質・性能	表示値±1%以内	30分で1g以下	0.98以上	50%以下

均質で有害と認められる異物の混入がないこと。

2 欠損部改修工法

※充てん工法
・エポキシ樹脂モルタル
・ポリマーセメントモルタル

[4.1.4] [4.2.2] [4.3.7]

1 既存モルタル塗りの
撤去

2 ひび割れ部改修工法

・行う (※全面・図示の範囲)

・既存モルタル撤去工法 (範囲は図示 撤去部分の補修は、3.欠損部改修工法による)

※樹脂注入工法

[4.1.4] [4.4.2] [4.4.5]

(※既存モルタル面・既存躯体コンクリート面)

注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	備 考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※	
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※40	
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※70	
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130	

注入材料

※建築補修用注入エポキシ樹脂 (JIS A 6024低粘度型又は中粘度型)

[4.2.2]

検査 (コア採取) ※行わない

・行う (採取部の補修方法:)

[4.3.4]

・Uカットシール材充てん工法

[4.1.4] [4.2.2] [4.4.6]

充てん材料	品質・規格等	備 考
・シーリング用材料	※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材	ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない ・行う

・可とう性エポキシ樹脂

・シール工法

[4.1.4] [4.2.2] [4.4.7]

(※既存モルタル面・既存躯体コンクリート面)

・パテ状エポキシ樹脂

・可とう性エポキシ樹脂

・既存塗り仕上げ材の撤去及び補修

[4.4.2] [4.6.3]

(※シール工法の範囲:)

3 欠損部改修工法

既存モルタル面の欠損部

[4.1.4] [4.4.8]

改修工法の種類	材 料	品質・規格等
・充てん工法	ポリマーセメントモルタル	
・モルタル塗替え工法	改修幅4.2.2 (g) による	塗り厚25mmを超える場合の補強 ※行う ・行わない ・図示

既製目地材

・適用する (形状 ※図示)

[4.2.2]

4 浮き部改修工法

[4.1.4] [4.4.10～15] [表4.4.3.4]

改修工法の種類 (モルタルを撤去しない場合)	アンカーピンの本数 (本/㎡)		注入口の箇所数 (箇所/㎡)		充てん量
	一般部	指定部	一般部	指定部	注入量
・アンカーピンニング部分 エポキシ樹脂注入工法	※16	※25	*	*	※25ml —
・アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※13	※20	※12	※20	※25ml
・アンカーピンニング全面 ポリマーセメントスラリー注入工法	※13	※20	※12	※20	・25ml ※50ml
・注入口付アンカーピンニング部分 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	*	*	※25ml
・注入口付アンカーピンニング全面 エポキシ樹脂注入工法	※9	※16	※9	※16	※25ml
・注入口付アンカーピンニング全面 ポリマーセメントスラリー注入工法	※9	※16	※9	※16	※50ml

アンカーピン

材質 ※ステンレスSUS304、呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの

注入口付アンカーピン

材質 ※ステンレスSUS304、呼び径外径6mm

[4.2.2]

[4.2.2]

1 既存タイル張りの
撤去

2 ひび割れ部改修工法

・外壁タイル張り全面・図示の範囲

撤去範囲 ※下地モルタルまで・張付けモルタルまで・タイルのみ

改修箇所 ※既存タイル張り面

・既存タイル撤去面 (・コンクリート面・モルタル面)

※樹脂注入工法

[4.1.4] [4.3.4] [4.5.5]

注入工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入口間隔 (mm)	注入量 (ml/m)	備 考
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～1.0未満	※200～300	※	
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上～0.3未満	※50～100	※40	
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上～0.5未満	※100～200	※70	
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上～1.0未満	※150～250	※130	

注入材料

※建築補修用注入エポキシ樹脂 (JIS A 6024低粘度型又は中粘度型)

[4.2.2]

検査 (コア採取) ※行わない

・行う (採取部の補修方法:)

[4.3.4]

・Uカットシール材充てん工法

[4.1.4] [4.2.2] [4.3.5.6]

充てん材料	品質・規格等	備 考
・シーリング用材料	※1成分形又は2成分形 ポリウレタン系シーリング材	ポリマーセメントモルタルの充てん ※行わない ・行う

・可とう性エポキシ樹脂

DATE

' 09. 09

SIGN

5 建築改修工事

17 オーバーヘッドドア

18 かざ箱

6 内装改修工事

1 改修範囲

2 既存壁の撤去並びに下地補修

3 既存壁の撤去並びに下地補修

4 木下地等

5 集成材等

6 接着剤

7 防汚、防蟻処理

8 床板張り

9 軽量鉄骨天井下地

10 軽量鉄骨壁下地

11 ビニル床シート張り

12 ビニル床タイル張り

13 帯電防止床タイル張り

14 視覚障害者用床タイル

15 ビニル幅木

16 合成樹脂塗床

17 フローリング張り

18 畳敷き

19 ポリスチレンフォーム床下地材

20 カーペット敷き

21 せつこうボードその他のボード張り

22 吸音材

ブロックパターンはJIS T 9251による
色彩は黄色を原則とする
屋 内 ※塩化ビニル製 ・磁器又はせつ器質タイル (※300 ・)
・ レジコンクリート製
屋 外 ※レジコンクリート製 ・磁器又はせつ器質タイル (※300 ・)

高さ (mm) ・ 60 ・ 75 ・ 100

種 別 仕上の種類

種 別 材 種 工 法 仕上り塗装等 備考

ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・ 第三種

種 別 材 種 工 法 仕上り塗装等 備考

ホルムアルデヒドの放散量 ※規制対象外 ・ 第三種

下地の種類 畳の種類

改修箇所 敷6.5.9による床組 ※B種 ・
ポリスチレンフォーム床下地 ※C種 ・

畳表及び畳床はVOC含有量が少ないものとする

ノンフロンもの G

畳下地 厚さ (mm) ※40 ・ 65 ・ 80
フローリング類 厚さ (mm) ※80 ・ 95

・ 織じゅうたん

種 別 バイル形状 色柄 等 備考

・ A種 ・ カットバイル ※無地
・ B種 ・ ループバイル ・ 柄物 (標準品)
・ C種 ・ カット、ループバイル併用 ・

耐電性 ※人体帯電圧3kV以下 ・

・ タフテッドカーベット

バイル形状 バイル長 (mm) 工 法 備考

・ カットバイル ※5〜7 ※全面接着工法
・ ループバイル ※4〜6 ・ グリッター工法
・ カット、ループ併用 ・

耐電性 ※人体帯電圧3kV以下 ・

・ タイルカーベット

バイル形状 種 類 種 類 総厚さ (mm) 備考

※ループバイル ※第一種 ※500×500 ※6.5
・ 第二種 ・

・ カットバイル
・ カット、ループ併用

耐電性 ・ 人体帯電圧3kV以下 (フリーアクセスフロア敷設範囲)

種 類 JISの記号 厚さ (mm) ・ 規格等

・ 硬質ホモセメント板 HW G ・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
・ 普通ホモセメント板 NW G ・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
・ 硬質木片セメント板 NF G ・ 15 ・ 20 ・ 25 ・
○けい酸カルシウム板 0.8FK タイプ2 (無石綿) ○ ・ 8 ・)
・ ロックウール化粧吸音板 DR ※フラットタイプ
(※9 (不燃) ・ 12 ・)
・ 凹凸タイプ
(※12 (不燃) ・ 15 ・ 19 ・)

○せつこうボード GB-R ※12.5 (不燃) ・ 9.5 (準不燃)
・ 不燃積層せつこうボード GB-NC 9.5 (不燃) 化粧無 (下地張り用)
化粧有 (トラバーチン模様)

○シーシングせつこうボード GB-S 12.5 (不燃)
・ 強化せつこうボード GB-F 12.5 (不燃) 15.0 (不燃)
・ せつこうラスボード GB-L 9.5
・ 化粧せつこうボード (木目) GB-D 12.5 (不燃) 幅40mm程度
模様 (※柱目 ・ 板目) 専用下地材付き

・ 普通合板 (難燃処理) G ・ 生地、透明塗料塗り (ラワン合板程度)
・ 不透明塗料塗り (しな合板程度)

・ メラミン樹脂化粧板 JIS K 6903による 厚さ1.2
・ ミディアムデンシティ MDF G ・ 素地MDF (RS) 化粧MDF (・ DV・ DO・ PC)
・ ファイバーボード ・ 3 ・ 7 ・ 9 ・ 12 ・

・ 単板張りパーティクルボード G ・ 無研磨板VN ・ 研磨板VS
・ 10 ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・

・ ハードボード (素地) HB G ・ 素地 ・ RN+HB ・ RS+HB
・ 25 ・ 35 ・ 5 ・ 7

・ インシュレーションボード IB G ・ T-IB ・ A-IB ・ S-IB
・ 9 ・ 12 ・ 15 ・ 18 ・

合板類、繊維板、及びパーティクルボードのホルムアルデヒドの放散量
※規制対象外 ・ 第三種
軽量鉄骨下地ボード遮音壁の遮音シール材
※適用する ・ 適用しない

種 類 JISの記号 厚さ (mm)

・ ロックウール吸音ボード1号 RW-B ※25
※グラスウール吸音ボード32K GW-B ※25

7 塗装改修工事	① 材料	屋内部の壁及び天井仕上材は、防火材料とする。 建物内部に使用するウリア樹脂等を用いた塗料のホルムアルデヒドの放数量 ※規制対象外 ・ 第三種	[7. 1. 3]
	② 下地調整		
8 アクリルシリコン樹脂 エナメル塗り	③ 合成樹脂調合 ペイント塗り	新規鉄面の塗りの種別 ・ A種 ※B種	[7. 4. 4] [表7. 4. 2]
	4 フタル酸樹脂 エナメル塗り	新規木部の塗りの種別 ・ A種 ※B種 新規鉄面、亜鉛めっき面の塗りの種別 ・ A種 ※B種	[7. 5. 2] [表7. 5. 1] [7. 5. 3] [表7. 5. 2]
	5 2液形ポリウレタン エナメル塗り		
9 常温乾燥形ふっ素樹脂 エナメル塗り			
⑧ つや有合成樹脂 エマルション ペイント塗り			
⑨ 合成樹脂エマルション ペイント塗り			
10 合成樹脂エマルション 模様塗り			

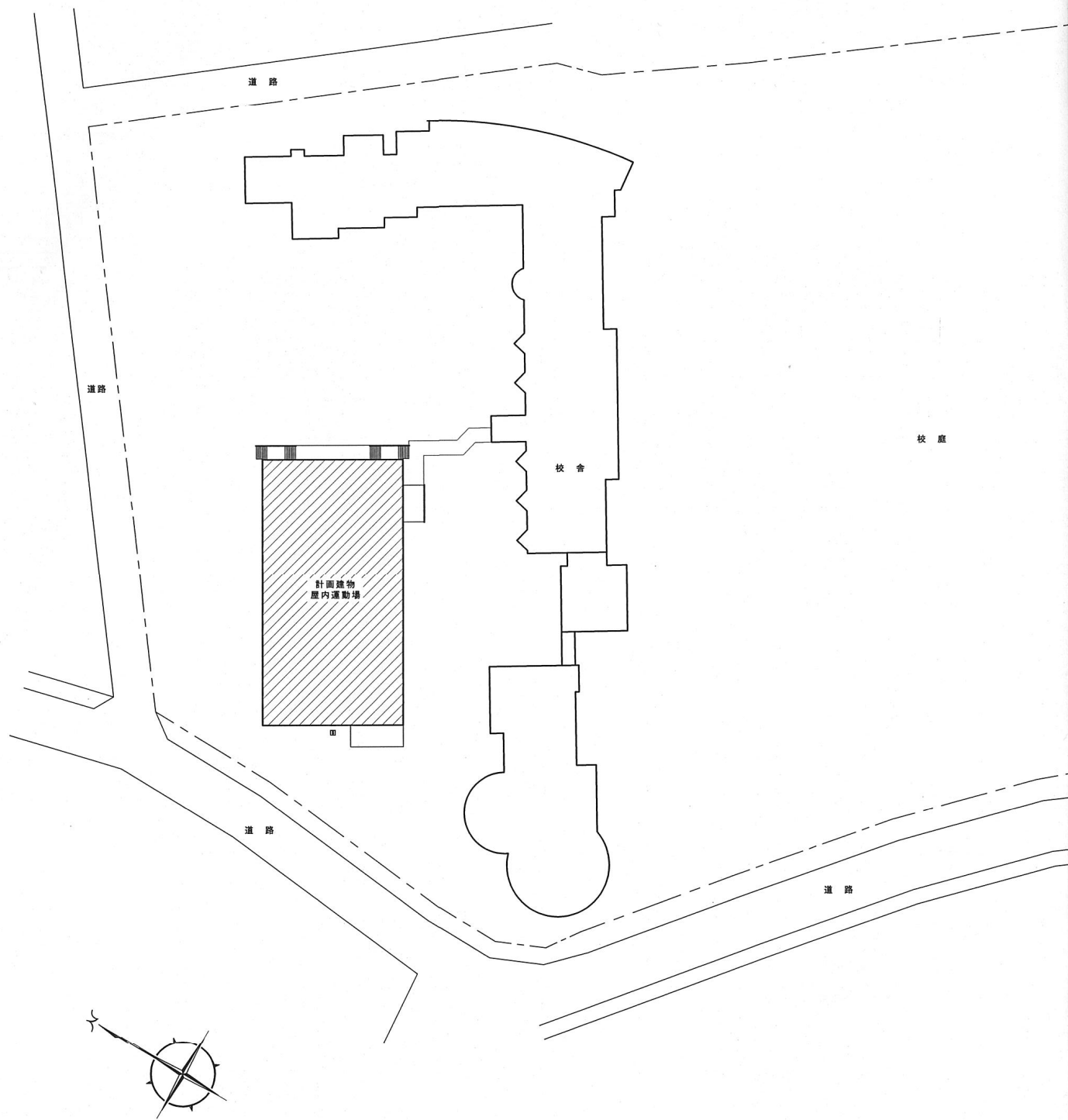
B-1 耐震改修工事及び耐震改修範囲以外の躯体改修工事（耐震補強工事標準仕様書参照）	① 鉄筋の種類		[8. 2. 1] [表8. 2. 1]
② 溶接金網			
③ 鉄筋の継手			
④ 鉄筋及び溶接金網の 最小かぶり厚さ			
⑤ 各部の配筋			
⑥ ガス圧接			
⑦ コンクリートの種類 及び強度			
⑧ コンクリートの品質			

⑨ 普通コンクリート	セメントの種類	[8. 2. 5] [表8. 2. 3]		
	※普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 ・ 高炉セメントB種			
	普通ポルトランドセメントは、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。			
	水和熱	7d 28d	352J/g以下 402J/g以下	
	混和材料			
	混和材料の種類	[8. 2. 5] [8. 5. 8]		
	※混和剤 ・ 混和材			
	住底等の均しモルタル	[8. 2. 10] (7. 10. 3) (表7. 10. 2)		
	※無収縮モルタル ・ 標仕表7. 10. 2IによるB種			
	グラウト材	[8. 2. 10]		
10 モルタル及び グラウト材	※無収縮グラウト材			
	無収縮モルタル及び無収縮グラウト材の仕様は以下による			
	無収縮グラウト材 プレミックス及び現場調合形			
	混和材	セメント系（酸化カルシウム及びカルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。		
	セメント	JIS R 5210（ポルトランドセメント）による普通または早強ポルトランドセメントとする。		
	砂	土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。 ただし、現場調合形に使用される砂の乾燥状態については、規定しない。		
	無収縮グラウトの品質及び試験方法（現場調合形においては標準使用量・配合値）			
	コンシステンシー	Jロートによる落下時間 練混ぜ完了から3分以内の値は 8±2秒		
	ブリージング	練り混ぜ2時間後のブリージング率： 2. 0%以下		
	凝結時間	凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内		
11 無筋コンクリート	無収縮性	材齢7日 収縮しないこと		
	圧縮強度	材齢3日 20N/mm ² 以上 材齢28日 40. 0N/mm ² 以上		
	付着強度	材齢28日 2. 5N/mm ² 以上		
	塩化物量	0. 30kg/m ³ 以下		
	試験方法	1) 日本道路公団規格（JHS）の「無収縮モルタル品質管理試験方法」312-1999による。なお、プレミックス形と現場調合形で混和材が同一の場合はプレミックスのみ試験を行う。 2) 塩化物量は、JIS A 5308「レディミクストコンクリート」の9. 6塩化物量の試験方法による。		
	無収縮モルタル			
	混和材	セメント系（酸化カルシウム及びカルシウムサルファルミネート等によって膨張する性質を利用するもの）とする。		
	セメント	JIS R 5210（ポルトランドセメント）による普通または早強ポルトランドセメントとする。		
	砂	土木学会コンクリート標準示方書に定められた品質を有するもので、特に精選されたものを絶対乾燥状態で使用する。		
	配合比	（各重量比） （セメント＋混和材）： 砂＝1：1		
12 高い強度の コンクリート	無収縮モルタルの品質及び試験方法			
	コンシステンシー	Jロートによる落下時間 練混ぜ完了から3分以内の値は 8±2秒		
	ブリージング	練り混ぜ2時間後のブリージング率： 2. 0%以下		
	凝結時間	凝結開始時間 1時間以上 終結時間 10時間以内		
	無収縮性	材齢7日 収縮しないこと		
	圧縮強度	材齢3日 25. 0N/mm ² 以上 材齢28日 45. 0N/mm ² 以上		
	付着強度	材齢28日 3. 0N/mm ² 以上		
	塩化物量	0. 30kg/m ³ 以下		
	試験方法	1) 日本道路公団規格（JHS）「無収縮モルタル品質管理試験方法」312-1999による。 2) 塩化物量は、JIS A 5308「レディミクストコンクリート」の9. 6塩化物量の試験方法による。		
	⑬ 鉄骨製作用場	設計基準強度F _c (N/mm ²)	スラブ (cm)	粗骨材の最大寸法
※普通コンクリート		※18	※15又は18	※25mm
・ 軽量コンクリート		・	・	・ 20mm
設計基準強度F _c (N/mm ²)		スラブ (cm)	粗骨材の最大寸法	適用箇所
・ 27 ・ 30 ・ 33 ・ 36				
適用箇所 ()				
混和材料				[8. 9. 3]
※混和剤				
※高性能AE減水剤標準形又は遅延形				
・				
⑭ 入熱、バス間温度の 溶接条件	製作工場の加工能力	[8. 1. 5]		
	・ 監督職員の承認する製作工場			
	・ 建築基準法第77条の45第1項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた（株）日本鉄骨評価センター又は（社）全国鋼構工業協会の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「（R）グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場。			
	入熱、バス間温度の溶接条件			
	適用箇所 ・ 図示 ※柱、梁、プレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部			
	鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件			
	※図示			
	適用箇所			
	※柱、梁、プレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部			
	・ 図示 ()			
⑮ 施工管理技術者	鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件			
	※図示			
	・			
	※適用する			

DATE	SIGN
'09.09	

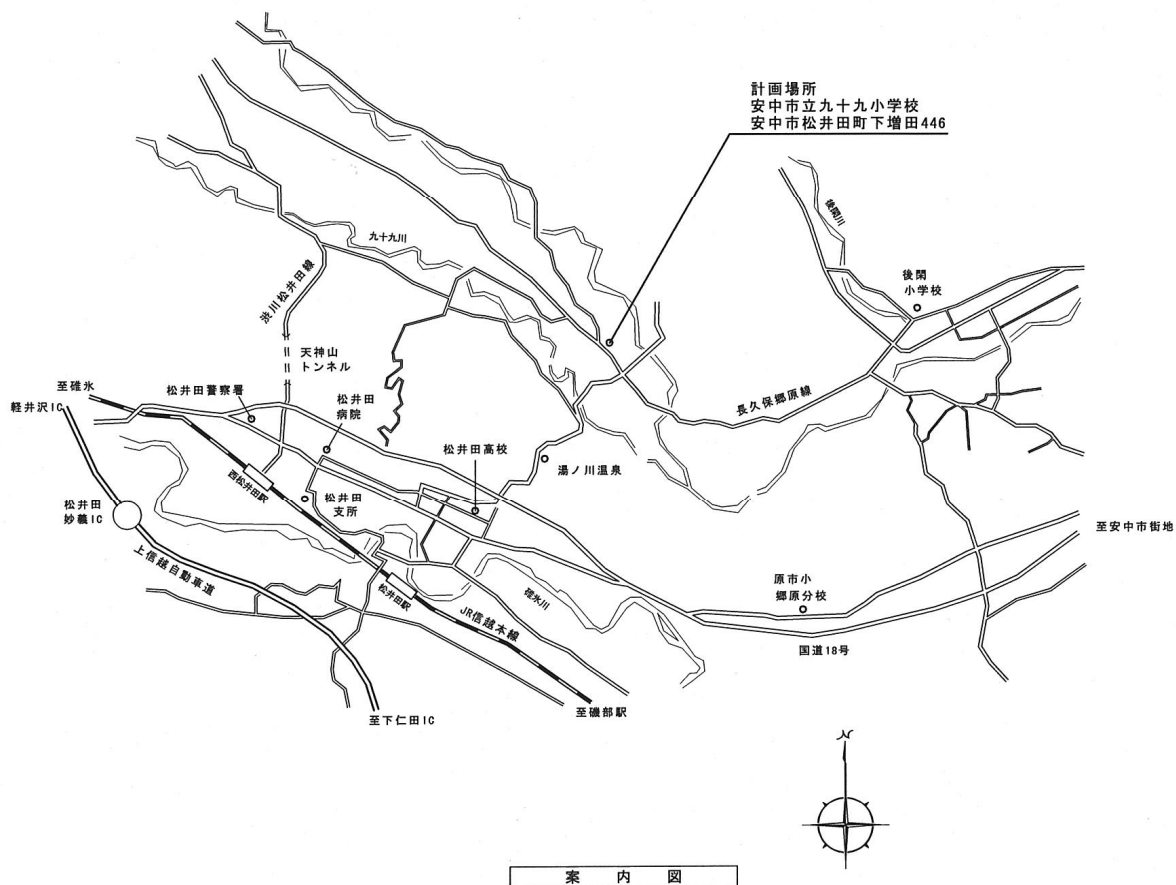
① 鋼材	鋼材の材質	[8.2.7] [表8.2.5]	
	種類の記号	適用箇所	規格等
	SS400	方杖、ブレース	※JIS規格による
			※JIS規格による
			※JIS規格による
17 スカラップ	※改良型スカラップ		
② 高力ボルト	高力ボルトの適用 ◎トルシア形高力ボルト ○JIS形高力ボルト ・溶融亜鉛めっき高力ボルト	[8.2.8]	
19 鉄骨工作仮組	・行う ※行わない	[8.12.9]	
20 溶接部の試験	完全溶込み溶接部の超音波探傷試験 ※行う	[8.14.11,12]	
② 錆止め塗料	耐火被覆材の接着する面の塗装 ・行う (※JIS K 5622) ※行わない	[8.16.2]	
22 耐火被覆材		[8.17.2~6]	
	種 別	所要性能及び適用構造区分	
	・ラス張りモルタル塗り		
	・耐火材 吹付け	・乾式吹付けロックウール ・半乾式吹付けロックウール ・湿式ロックウール	
	・耐火板張り		
② 既存コンクリート面の 目荒し	適用範囲 [8.19.3] [8.20.3] ※既存コンクリートとの打継ぎ面 ※既存コンクリートとモルタル又はグラウト材の充てん部の接合面 ・ 目荒らしの範囲 ※柱、梁面、壁面 打継ぎ面又は接合面全面の1/3程度 ※壁面 打継ぎ面又は接合面全面の1/3程度 ・ 目荒らしの程度 ※平均深さ5~10mm (最大深さ10~15mm) 程度の凹部を施す		
② あと施工アンカーの 材料	あと施工アンカーの材料 [8.2.4] ・金属系アンカー (耐震補強用) ※接着系アンカー 接着剤の品質 ※有機系 アンカー筋の種類 ※鉄筋コンクリート用棒鋼 ・金ねじボルト		
② あと施工アンカーの 穿孔	穿孔前の埋込み配管等の調査 範囲 ※あと施工アンカー施工部分全て ・図示 方法 ※探査器により探査し、配管等の位置の墨出を行う ・はつり出しによる	[8.11.2]	
② あと施工アンカーの 施工確認試験	アンカー筋 ※行う (確認強度は図示による) ・行わない	[8.11.5]	
27 断熱材兼用型枠			
	種 類	施工箇所	厚さ (mm) 品質等
	・断熱材兼用型枠	・木質系 ・コンクリート系 ・プラスチック系	※壁 (図示の範囲) ※40以下 断熱抵抗 =厚さ/熱伝導率 =0.676以上 (m ² ・k/w)
		製造所 建設技術評価「建築物の断熱材兼用型枠工法の開発」において、評価を取得したもの	

9 環境配慮改修工事	1 アスベスト含有調査	分析による確認 ・行う (下表による)	
		材 料 名	調査方法 1材料あたりの試料数
			※定性分析 (3 ・) ※定量分析 (※3 ・)
			※定性分析 (3 ・) ※定量分析 (※3 ・)
			※定性分析 (3 ・) ※定量分析 (※3 ・)
			※定性分析 (3 ・) ※定量分析 (※3 ・)
			※定性分析 (3 ・) ※定量分析 (※3 ・)
			※定性分析 (3 ・) ※定量分析 (※3 ・)
			※定性分析 (3 ・) ※定量分析 (※3 ・)
			※定性分析 (3 ・) ※定量分析 (※3 ・)
2 アスベスト除去工事	吹付けアスベストの施工数量調査 [9.1.2] [表9.1.1,2] ※ 行う アスベスト粉じん濃度測定 ※ 行う 表9.1.1及び表9.1.2による他、関係法令及び関係条例に定める方法により測定する。 除去工事を行う当該建築物の敷地境界において、規制のある場合はその規制に従う。 吹付けアスベストの除去範囲の家具等及び設備機器 ・劣化、損傷によりたいたアスベスト除去を行う。 除去範囲、除去方法は図示 ・養生内の電灯設備等の取外し、撤去を行う。 除去範囲、除去方法は図示 吹付けアスベストのアスベスト処理後の機能回復のための工事 ※図示 [9.1.1]		
3 アスベスト含有保温材等の処理工事 (レベル2)	一般事項 関係法令、都道府県の条例等を遵守し、必要な官公署手続き及び処理工事作業を行う。 アスベスト含有保温材等の施工数量調査 ※行う 9.1.2(a) (i) 及びアスベスト含有保温材等の種類の確認 [9.1.2] [表9.1.1~9.1.2] アスベスト粉じん濃度測定 ※行う 測定室 ・図示 測定室 ・図示 表9.1.1及び表9.1.2による他、関係法令及び関係条例に定める方法により測定する。 設備配管の保温材の撤去 ・行う 図示 処理を行うアスベスト成形板の仕様等 [9.1.3] 材料名 (製品名) 含有するアスベストの種類 含有率 処理を行う範囲 小波スレート ※図示 ・ ※図示		



配置図 S=1:400

DATE		SIGN	
'09.09			



外部仕上表

外部部位名		仕上		備考	外部部位名	仕上	
屋内運動場 屋根・バルコニー	現況	カー折板葺 t0.6 山高150 断熱材裏打 小波スレートt6.3 横張 EP塗 カー鉄板並木		解体撤去 解体撤去 解体撤去	屋内運動場 基礎廻り	モルタルゴテ仕上	
	実施	断熱屋根バネル葺き t35 断熱系サイディング横張り 7&3製並木 W200		新設母屋 C-100×50×20×2.3 ④100 新設縦胴縁 C-60×30×2.3 ④455		現況のまま	
屋内運動場 軒天	現況	7&3ゴテ・鉄・t4 目込 EP塗		解体撤去	屋内運動場 軒・壁	内張：亜鉛鉄板t26 コーキング焼付 軒：塩ビ製120φ 横断シ PL-6×250 SOP塗 壁：塩ビ製75φ	
	実施	7&3ゴテ・鉄・t4 目込 EP塗		既存下地調整		内張：耐酸被覆鋼板 t0.6 曲げ加工 軒：塩ビ製150型 横断シ SOP塗替 壁：塩ビ製75φ	
屋内運動場 外壁	現況	木毛モルタル板t20 小波スレートt6.3 横張 EP塗 木毛モルタル板t20 7&3ゴテ・鉄・t5 シイテ目地 EP塗 木毛モルタル板t20 モルタルゴテ仕上 鉄骨 現シ部 SOP塗		解体撤去 解体撤去	屋内運動場 開口部	7&3ゴテ 内部縦線：木製 OS塗 スチール 内部ハンパシヤ張り	
	実施	断熱系サイディングt15横張り 透湿防水シート張り 木毛モルタル板t20 モルタルゴテ仕上 鉄骨 現シ部 SOP塗替		新設縦胴縁 C-60×30×2.3 ④455 現況のまま 塗替		7&3ゴテ 内部縦線：木製 UC塗（更衣室、便所、 7&3製固定スリ	
	現況				屋内運動場 ポーチ・犬走り	スチール：磁器質タイル100角張り 犬走り：コンクリートゴテ仕上 階段：モルタルゴテ仕上	
	実施					現況のまま 現況のまま 現況のまま	

内部仕上表

階	室名	下地	床	備考	巾木	備考	下地	壁
1	玄関	現況	モルタル下地 木床組（転シ床）	磁器質タイル 100角張り 合板t12 7&3ゴテ・鉄・t15 15kg フローリング・鉄・t15 特殊塗装	一部解体撤去	モルタルゴテ H150 木製 OS塗 H100	一部解体撤去	木脚縁下地 杉板t18 下見板張り OLCL塗
		実施	モルタル下地 木床組（転シ床） 木床組（転シ床）	磁器質タイル 100角張り 合板t12 7&3ゴテ・鉄・t15 15kg フローリング・鉄・t15 特殊塗装 合板t12+12 長尺塩ビシート t2.5張り	現況のまま 一部下地補修・調整 改修 下地補修・調整	モルタルゴテ H150 木製 UC塗 H100	現況のまま 一部改修	木脚縁下地 LGS下地 木脚縁 杉板t18 下見板張り OLCL塗 杉板t18 相欠き目隠かし横張
	改修前 男子更衣室 改修後 女子更衣室	現況	木床組（転シ床）	合板t12 コム入クッションフロア張り	仕上材撤去	木製 OS塗 H100	解体撤去	木脚縁下地 耐水合板t9 ビニールクロス張り
		実施	木床組（転シ床）	合板t12 長尺塩ビシートt2.8張り（発泡層7リ）	改修 下地補修・調整	木製 UC塗 H100	改修	木脚縁下地 LGS下地 石膏ボードt12.5 ビニールクロス張り 石膏ボードt12.5 ビニールクロス張り
	改修前 女子更衣室 改修後 男子更衣室	現況	木床組（転シ床）	合板t12 コム入クッションフロア張り	仕上材撤去 一部床組撤去	木製 OS塗 H100	解体撤去	木脚縁下地 耐水合板t9 ビニールクロス張り
		実施	木床組（転シ床）	合板t12 長尺塩ビシートt2.8張り（発泡層7リ）	改修 下地補修・調整	木製 UC塗 H100	改修	木脚縁下地 LGS下地 石膏ボードt12.5 ビニールクロス張り 石膏ボードt12.5 ビニールクロス張り
	用具庫	現況	木床組（転シ床）	合板t12 油敷	仕上材撤去 一部床組撤去	木製 OS塗 H200	解体撤去	木脚縁下地 耐水合板t9 ビニールクロス張り
		実施	木床組（転シ床）	合板t12 長尺塩ビシートt2.5張り	改修 下地補修・調整	木製 UC塗 H200	改修	木脚縁下地 LGS下地 石膏ボードt12.5 EP塗 石膏ボードt12.5 EP塗
	男子便所	現況	モルタル下地	磁器質タイル張り	解体撤去			OB壁 モルタル下地 7&3モルタル下地 磁器質タイル 100角張り
		実施	RC下地（打増） RC下地（打増）	コンクリート金ゴテ 長尺塩ビシート t2.5張り モルタル下地 御影石 t20張り	改修 改修	塩ビ製巾木 H100	改修	木脚縁下地 LGS下地 耐水石膏ボードt12.5 EP塗 耐水石膏ボードt12.5 EP塗 合板t12+耐水石膏ボードt12.5
	女子便所	現況	モルタル下地	磁器質タイル張り	解体撤去			OB壁 モルタル下地 7&3モルタル下地 磁器質タイル 100角張り
		実施	RC下地（打増）	コンクリート金ゴテ 長尺塩ビシート t2.5張り	改修	塩ビ製巾木 H100	改修	木脚縁下地 LGS下地 耐水石膏ボードt12.5 EP塗 耐水石膏ボードt12.5 EP塗 合板t12+耐水石膏ボードt12.5
	多目的便所	実施	RC下地（打増）	コンクリート金ゴテ 長尺塩ビシート t2.5張り	改修	塩ビ製巾木 H100	改修	木脚縁下地 LGS下地 耐水石膏ボードt12.5 EP塗 耐水石膏ボードt12.5 EP塗 合板t12+耐水石膏ボードt12.5
2	スチール・控室 階段	現況	木床組（東立床）	合板t12 7&3ゴテ・鉄・t15 17kg フローリング・鉄・t15 特殊塗装		木製 OS塗 H100		木脚縁下地 有孔合板t6 目込 SOP塗
		実施	木床組（東立床）	合板t12 7&3ゴテ・鉄・t15 17kg フローリング・鉄・t15 特殊塗装	現況のまま	木製 OS塗 H100	現況のまま	木脚縁下地 有孔合板t6 目込 SOP塗
	体育館	現況	鋼製東立床	耐水合板t12 フローリング・鉄・t18 特殊塗装	解体撤去	木製 OS塗 H100	一部解体撤去	木脚縁下地 木脚縁下地 木脚縁下地 杉板t18 下見板張り OLCL塗 有孔合板t6 目込 SOP塗 収納壁面：耐水合板t5.5
		実施	鋼製東立床組	合板t12 大型積層フローリングt18 水性リキッド塗装仕上	改修	木製 OS塗 H100 木製 UC塗 H100	現況のまま 一部改修	木脚縁下地 木脚縁下地 木脚縁下地 杉板t18 相欠き目隠かし横張 有孔合板t6 目込 SOP塗 収納壁面：合板t12 ビニールクロス張り
	卓球室	現況	木床組（転シ床）	合板t12 7&3ゴテ・鉄・t15 15kg フローリング・鉄・t15 特殊塗装		木製 OS塗 H100		木脚縁下地 有孔合板t6 目込 SOP塗
		実施	現況のまま	合板t12 7&3ゴテ・鉄・t15 15kg フローリング・鉄・t15 特殊塗装	現況のまま	木製 OS塗 H100	現況のまま	木脚縁下地 有孔合板t6 目込 SOP塗
	放送室	現況	木床組（転シ床）	合板t12 コム入クッションフロア張り		木製 OS塗 H100		木脚縁下地 有孔合板t6 目込 SOP塗
		実施	現況のまま	合板t12 コム入クッションフロア張り	現況のまま	木製 OS塗 H100	現況のまま	木脚縁下地 有孔合板t6 目込 SOP塗
	キッズ	現況	鉄骨下地	フェイカプレートt4.5 SOP塗	一部解体撤去	木製 OS塗 H100		木脚縁下地 耐水合板t5.5 SOP塗
		実施	鉄骨下地	フェイカプレートt4.5 SOP塗	一部補修	木製 OS塗 H100	現況のまま	木脚縁下地 耐水合板t5.5 SOP塗
	共通 階段室	現況	鉄骨下地 木床組（転シ床）	コム入クッションフロア張り 合板t12 フローリング・鉄・t15 特殊塗装		木製 OS塗 H100 木製 OS塗 H100		木脚縁下地 木脚縁下地 石膏ボードt12 ビニールクロス張り 有孔合板t6 目込 SOP塗
		実施	鉄骨下地 木床組（転シ床）	コム入クッションフロア張り 合板t12 フローリング・鉄・t15 特殊塗装	現況のまま 現況のまま	木製 OS塗 H100 木製 OS塗 H100	現況のまま 現況のまま	木脚縁下地 木脚縁下地 石膏ボードt12 ビニールクロス張り 有孔合板t6 目込 SOP塗

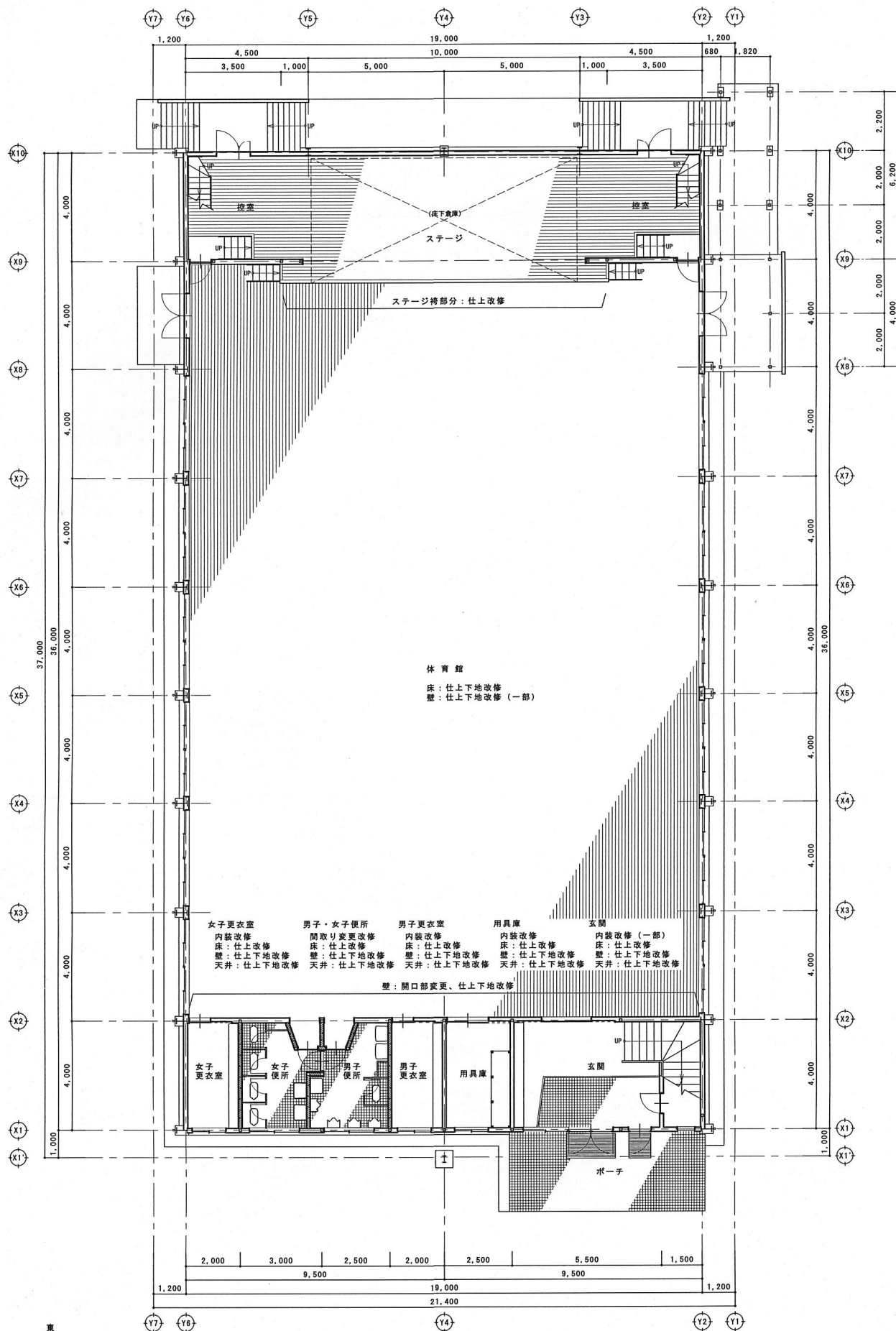
特記事項	使用材料の防火認定番号
1. 使用する建材のうち、シックハウス対策に関わる建材は全てF☆☆☆☆を使用する。	（不燃） NM-8585 耐水石膏ボード t9.5
2. 天井裏、小屋裏のシックハウス対策に関わる建材は全てF☆☆☆☆を使用する。	（準不燃） QM-9816 ロックウール化粧吸音板 t9 t12
3. 木部仕上はUC塗とする。	（難燃） RM-9364 木毛セメント板 t15
	（不燃） NM-8576 有孔吸音板（ACN）t9
	（不燃） NM-8619 紙壁紙（1級） 下地基材不燃材料
	（不燃） NM-9639 同上（1級） 下地基材不燃材料
	（不燃） NM-8613 織物壁紙（1級） 下地基材不燃材料
	（不燃） NM-8615 同上（1級） 下地基材不燃材料
	（準不燃） NM-9645 ビニール壁紙（2級） 下地基材不燃材料
	（準不燃） QM-9824 同上（2級） 下地基材不燃材料
	（準不燃） QM-9828 無機質壁紙 下地基材不燃材料

DATE	SIGN
'09.09	

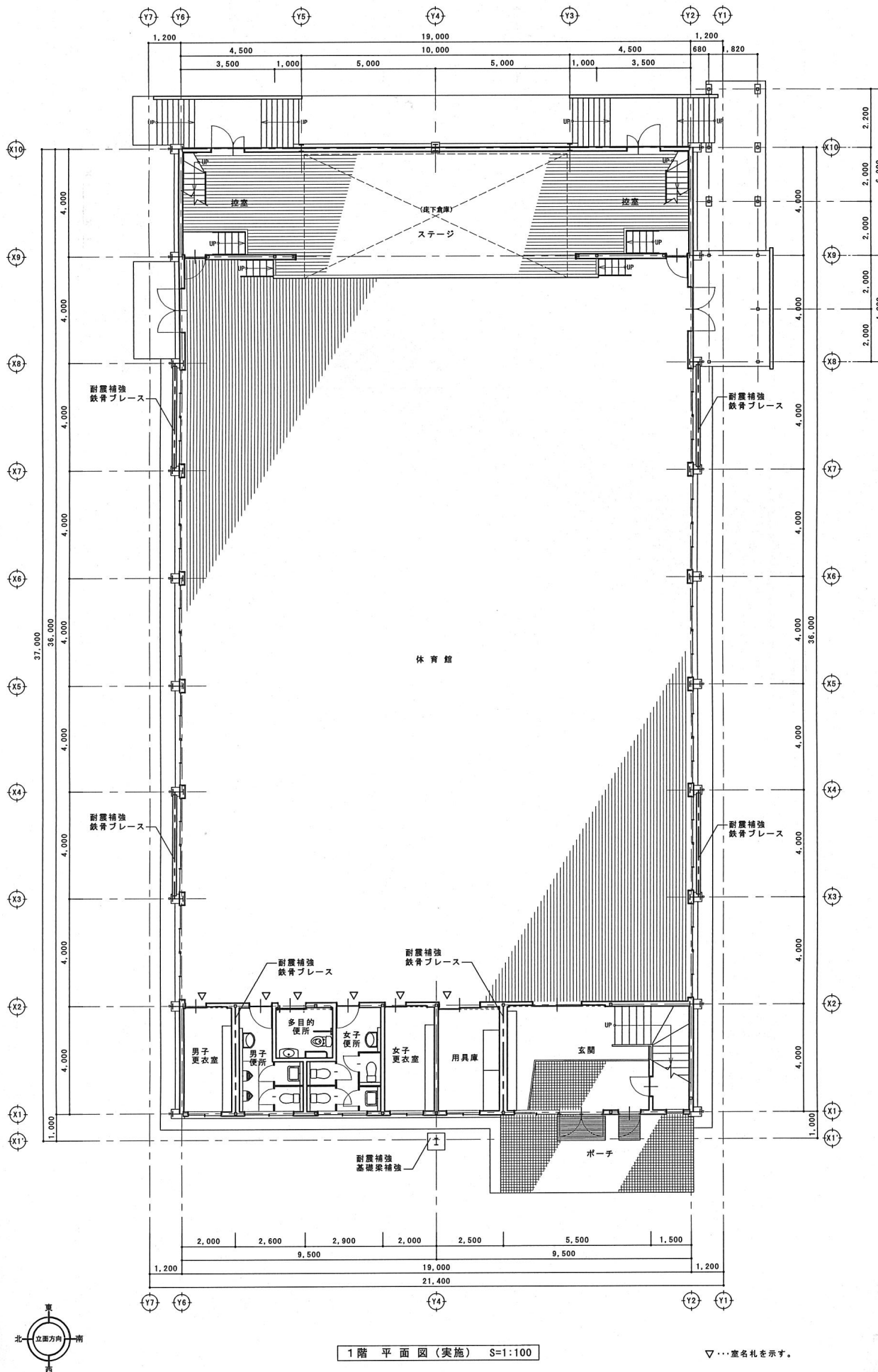
備 考		外 部 部 位 名		仕 上		備 考
		渡り廊下 屋根	現況	ｶﾞｰﾅｰ折板葺 t0.6 山高150		
			実施	現況のまま		
	軒樋解体撤去 解体撤去	渡り廊下 躯体	現況	鉄骨 現り部 SOP壁		
			実施	現況のまま		
	解体撤去	渡り廊下 土間	現況	ｺﾝｸﾘｰﾄ金ｺﾞﾗﾞ仕上		
用具庫のみ)	調整、一部新設網戸		実施	現況のまま		

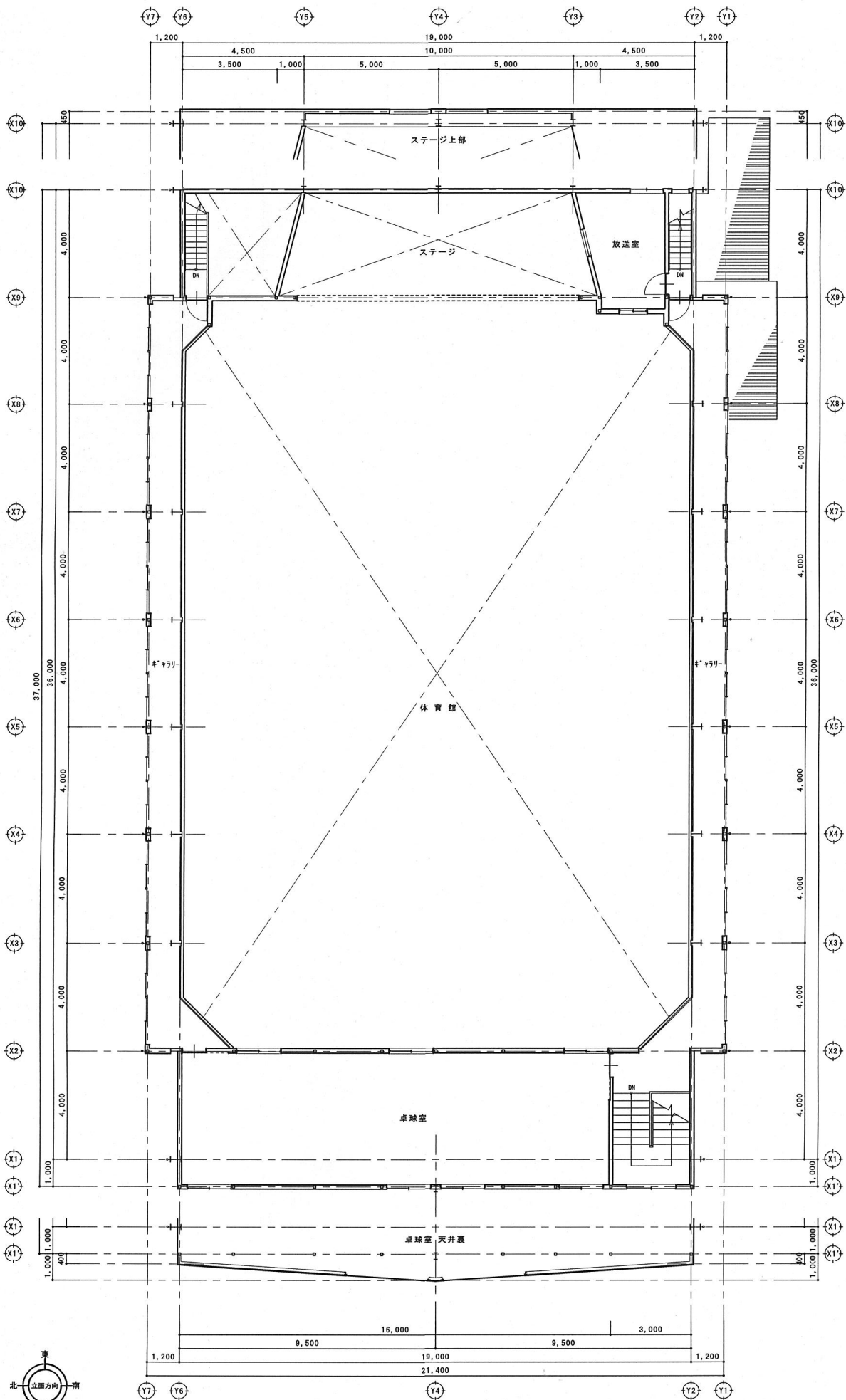
	備考	天 井		備考	廻り縁	備考	備考
		下地					
	一部解体撤去	木下地	合板t9 ﾋﾞﾆｰﾙｸﾞﾗﾌﾞﾙ強り	一部解体撤去	木製 OS壁	一部解体撤去	木製下駄箱 解体撤去 案内板取り外し
リ UC壁	現況のまま 改修	木下地 木下地	合板t9 ﾋﾞﾆｰﾙｸﾞﾗﾌﾞﾙ強り 合板t9 ﾋﾞﾆｰﾙｸﾞﾗﾌﾞﾙ強り	仕上張替 一部改修 仕上・下地	木製 OS壁 木製 UC壁	現況のまま 一部 改修	新設ｽﾃｰﾙ製 下駄箱 床見切りSUSﾌﾟﾗｯｸﾞ 金物 案内板移設
	解体撤去	木下地	化粧石膏ｶﾞｰﾄﾞt9強り	仕上材撤去	木製 OS壁	解体撤去	木製ﾛｯｶｰ 解体撤去
リ リ	改修 仕上・下地 改修	LGS下地	化粧石膏ｶﾞｰﾄﾞt9.5強り	改修	塩ﾋﾞｰ製	改修	新設ｽﾃｰﾙ製 ﾛｯｶｰ
	解体撤去	木下地	化粧石膏ｶﾞｰﾄﾞt9強り	仕上材撤去	木製 OS壁	解体撤去	木製ﾛｯｶｰ 解体撤去
リ リ	改修 仕上・下地 改修	LGS下地	化粧石膏ｶﾞｰﾄﾞt9.5強り	改修	塩ﾋﾞｰ製	改修	新設ｽﾃｰﾙ製 ﾛｯｶｰ
	解体撤去	木下地	ｷｬﾙﾌﾞ板t4 目ｽｶｼﾞ VE壁	仕上材撤去	木製 OS壁	解体撤去	木製棚 解体撤去
	改修 仕上・下地 改修	LGS下地	ｷｬﾙﾌﾞ板t6 目ｽｶｼﾞ EP壁	改修	塩ﾋﾞｰ製	改修	新設ｽﾃｰﾙ製 棚
	解体撤去 解体撤去	木下地	ｷｬﾙﾌﾞ板t4 目ｽｶｼﾞ VE壁	解体撤去	木製 OS壁	解体撤去	
化粧ｷｬﾙﾌﾞ板t4強り	改修 仕上・下地 改修 ﾚｲﾝｸﾞ部	LGS下地	ｷｬﾙﾌﾞ板t6 目ｽｶｼﾞ EP壁	改修	塩ﾋﾞｰ製	改修	ﾚｲﾝｸﾞ 甲板 ﾘﾞﾗﾞﾞﾞﾞﾞﾞﾞ
	解体撤去 解体撤去	木下地	ｷｬﾙﾌﾞ板t4 目ｽｶｼﾞ VE壁	解体撤去	木製 OS壁	解体撤去	
化粧ｷｬﾙﾌﾞ板t4強り	改修 仕上・下地 改修 ﾚｲﾝｸﾞ部	LGS下地	ｷｬﾙﾌﾞ板t6 目ｽｶｼﾞ EP壁	改修	塩ﾋﾞｰ製	改修	ﾚｲﾝｸﾞ 甲板 ﾘﾞﾗﾞﾞﾞﾞﾞﾞﾞﾞ
化粧ｷｬﾙﾌﾞ板t4強り	改修 改修 ﾚｲﾝｸﾞ部	LGS下地	ｷｬﾙﾌﾞ板t6 目ｽｶｼﾞ EP壁	改修	塩ﾋﾞｰ製	改修	ﾚｲﾝｸﾞ 甲板 ﾘﾞﾗﾞﾞﾞﾞﾞﾞﾞﾞ
寒冷紗裏貼り		木下地	屋根現り ﾘﾞﾞﾞﾞﾞﾞﾞﾞﾞ 鉄骨 SOP壁 化粧石膏ｶﾞｰﾄﾞt9強り	一部解体撤去	木製 OS壁	一部解体撤去	
寒冷紗裏貼り	現況のまま	LGS下地	屋根現り ﾘﾞﾞﾞﾞﾞﾞﾞﾞﾞ 鉄骨 SOP壁 化粧石膏ｶﾞｰﾄﾞt9.5強り	耐震補強 一部改修 仕上・下地	木製 OS壁 木製 UC壁	現況のまま 一部 改修	
寒冷紗裏貼り ｺﾞﾗﾞﾞﾞﾞﾞ強り	一部解体撤去 一部解体撤去 仕上材撤去	木下地	屋根現り 石膏ボードt9 VE壁		木製 OS壁		鏡取り外し
リ UC壁 寒冷紗裏貼り 張り	一部補修 改修 現況のまま 改修 仕上・下地	木下地	屋根現り 石膏ボードt9 VE壁	屋根改修 現況のまま	木製 OS壁	現況のまま	鏡移設
	一部解体撤去	木下地	石膏ボードt9 VE壁	一部解体撤去	木製 OS壁	一部解体撤去	
	現況のまま 改修 仕上・下地	木下地 木下地	石膏ボードt9 VE壁 石膏ボードt9.5 EP-G壁	現況のまま 一部改修 仕上・下地	木製 OS壁 木製 UC壁	現況のまま 一部 改修	
寒冷紗裏貼り	一部解体撤去	木下地	化粧石膏ｶﾞｰﾄﾞt9強り	一部解体撤去	木製 OS壁		
寒冷紗裏貼り 寒冷紗裏貼り	現況のまま 一部改修 仕上・下地	木下地	化粧石膏ｶﾞｰﾄﾞt9強り	一部改修 仕上・下地	木製 OS壁	現況のまま	
	一部解体撤去	木下地	ﾌﾚｯｼﾝｸﾞ ﾎﾙﾄﾞt4 目ｽｶｼﾞ VE壁	一部解体撤去	木製 OS壁		
	一部改修 仕上・下地	木下地 木下地	ﾌﾚｯｼﾝｸﾞ ﾎﾙﾄﾞt4 目ｽｶｼﾞ VE壁 ﾌﾚｯｼﾝｸﾞ ﾎﾙﾄﾞt4 目ｽｶｼﾞ EP-G壁	現況のまま 一部改修 仕上・下地	木製 OS壁	現況のまま	
	一部解体撤去	木下地	ﾌﾚｯｼﾝｸﾞ ﾎﾙﾄﾞt4 目ｽｶｼﾞ VE壁	一部解体撤去	木製 OS壁	一部解体撤去	
	現況のまま 一部改修 仕上・下地	木下地 LGS下地	ﾌﾚｯｼﾝｸﾞ ﾎﾙﾄﾞt4 目ｽｶｼﾞ VE壁 ﾌﾚｯｼﾝｸﾞ ﾎﾙﾄﾞt4 目ｽｶｼﾞ EP-G壁	現況のまま 下地補修・調整	木製 OS壁 木製 UC壁	現況のまま 一部 改修	

塗装の種類と記号				内部仕上下地材料の種類と記号					
準不燃)	QM-9826	SOP	合成樹脂調合ペイント仕上	aIP	アルミニウムペイント仕上	RC	コンクリート	GB-R	石膏ボード
不燃)	NM-8599	FP	フタル酸エナメル	GP	塩化ゴム系塗料仕上	CB	コンクリートブロック	GB-S	耐水石膏ボード
準不燃)	QM-9022	VE	溶剤形塩化ビニル樹脂系塗料仕上	EXP	エポキシ樹脂系塗料仕上	Mo	モルタル	GB-D	化粧石膏ボード
不燃)	NM-1313	AEP	酢酸ビニル樹脂系塗料仕上	OSV	オイルステインワニス仕上	LGS	鋼製下地	GB-H	硬質石膏ボード
不燃)	個別認定番号	EP	合成樹脂系エマルジョン塗料仕上	OSW	オイルステインワックス仕上	W	木下地	GB-F	強化石膏ボード
準不燃)	個別認定番号	多彩	多彩模様塗料仕上	OSC	オイルステインクリアー仕上	S	鉄骨下地	DR	ロックウール化粧吸音板
不燃)	個別認定番号	AC	アクリル樹脂系クリヤー仕上	LE	ラッカーエナメル塗料仕上	LF	鋼製床組(乾式重床)		
準不燃)	個別認定番号	BE	焼付形塗料			防主壁	防火上主要な間仕切壁(耐火1時間+遮音)		
準不燃)	個別認定番号	AE	アクリル樹脂系塗料仕上				FP060NP-9073		
準不燃)	個別認定番号	UC	ポリウレタン樹脂系クリヤー仕上				(GB-R t12.5+GB-H t9.5 両面張り ｸﾞﾗｽｸﾞﾙ t50 LGS 65形)		
不燃)	個別認定番号	UE	ポリウレタン樹脂系塗料仕上						



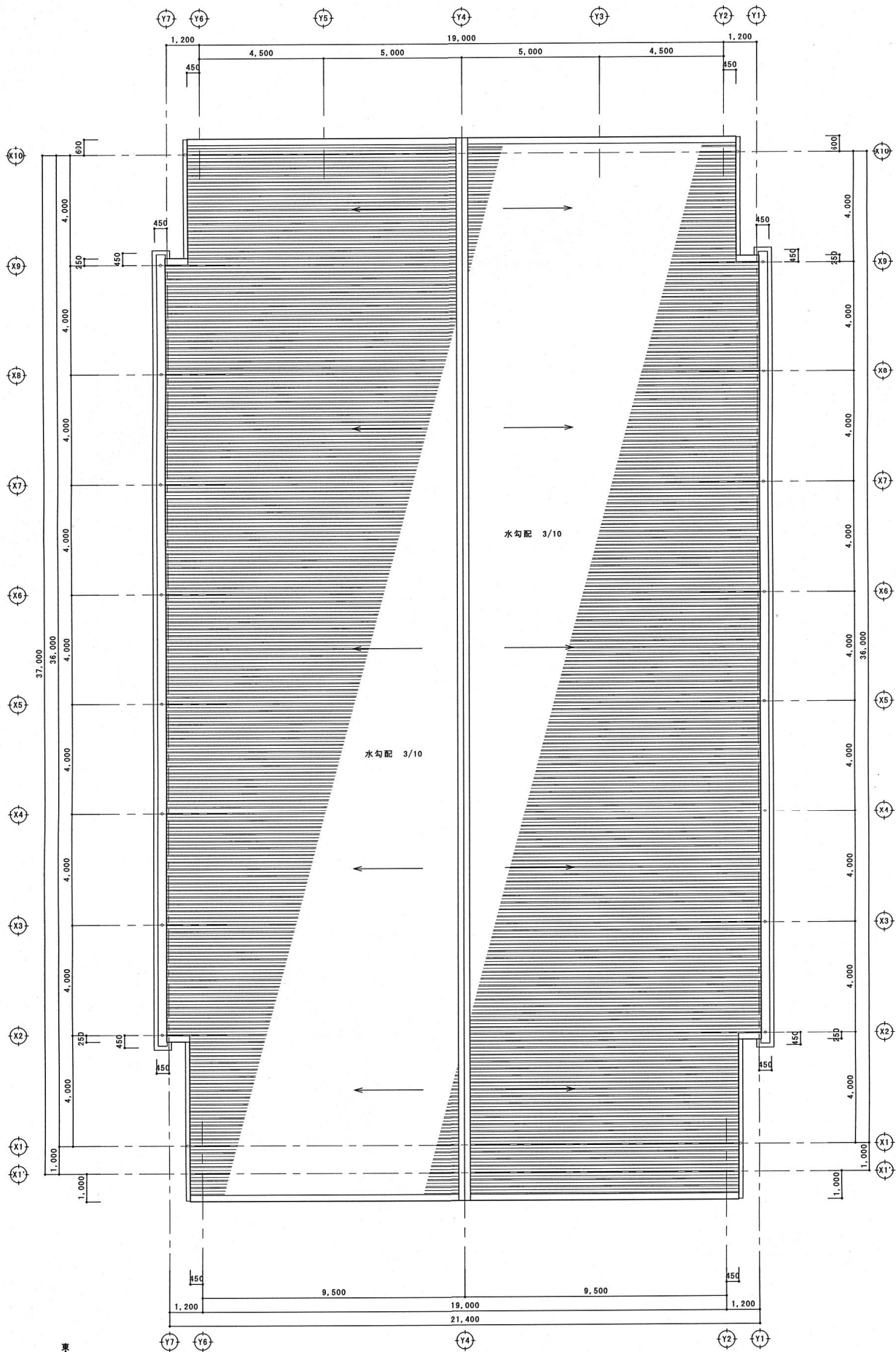
DATE	SIGN
'09.09	





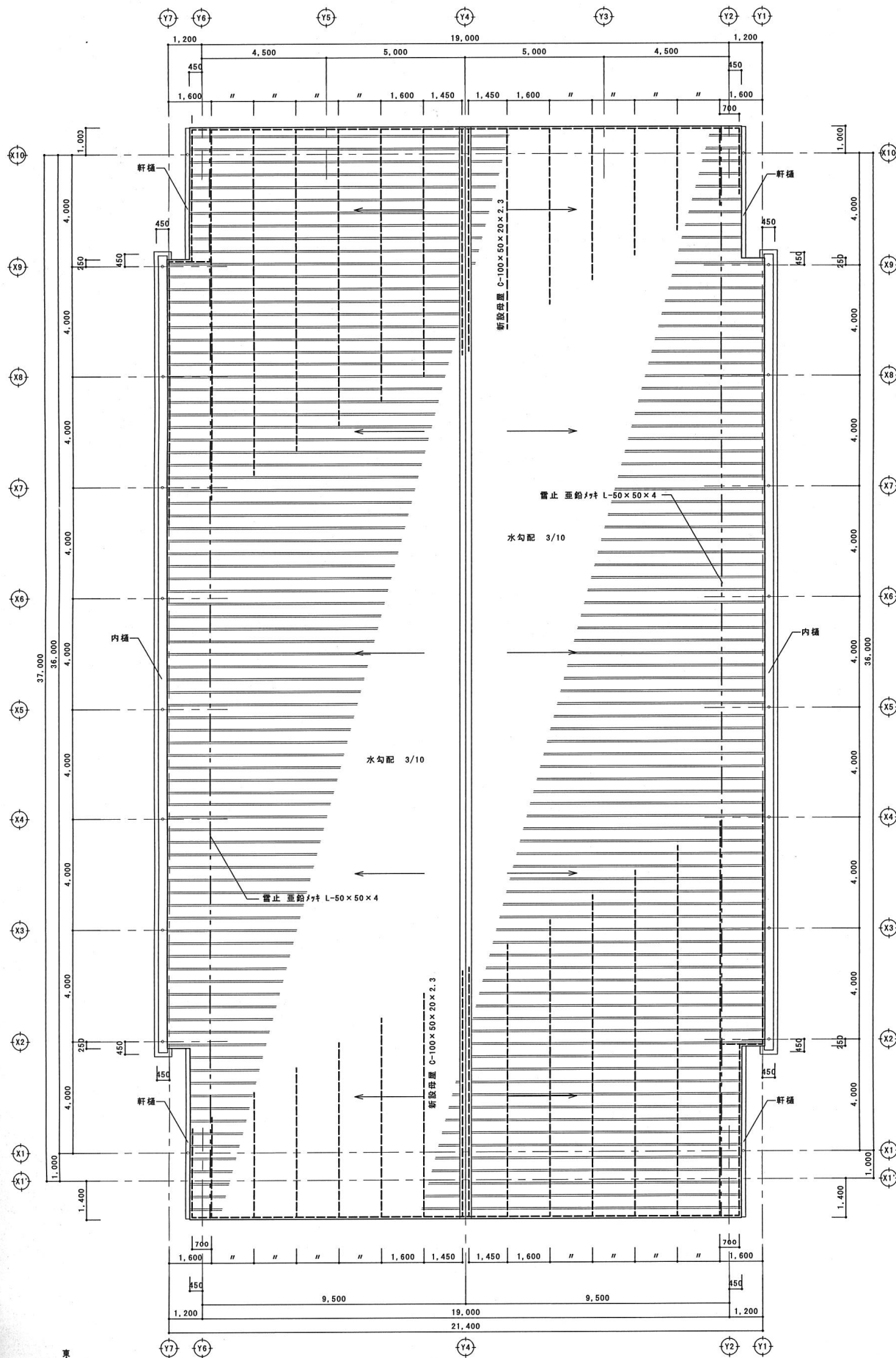
2階平面図 (現況) S=1:100

DATE		SIGN	
'09.09			



屋根伏図 (現況) S=1:100

DATE		SIGN	
'09.09			



屋根伏図 (実施) S=1:100